



おとめ座

さて、見かけ上は、太陽が1年で天球を1周して、その道を黄道といいます。その黄経（太陽が1年で1周する黄道上の位置）150度～180度までが『おとめ座』の領域です。東洋的に表現すれば、処女宮といいます。

毎年、太陽が『おとめ座』の黄経（太陽が1年で1周する黄道上の位置）を通過するのは8月24日から9月22日ごろになります。節気上では『処暑』から『秋分』までの期間です。NHKのニュースでは、必ず「今日は処暑・・・」といった解説が、されますが、そんなとき、処暑だから今日から、自分自身の『おとめ座』がスタートするとうように頭を回転させましょう。

この頃は、夏が終わりつつあり、農作物が収穫を迎えようとしています。こういった収穫というのは、完成された姿です。この完成したいという気持ちが、『おとめ座』の一番重要な意味を暗示しているのです。

次に、密教占星学でいう、27宿も、実は、12星座を細かく分類したもので、27宿を知ることが、『おとめ座』の理解を深めることとなります。

『おとめ座』では『翼（よく）宿が4分の3・軫（しん）宿・角（かく）宿が2分の1』が含まれます。

・翼（よく）宿は、自尊心が強く、正義に生き、自分は、一般の大衆的な人とは異なるという雰囲気がある人です。

・軫（しん）宿は、見かけは女性的で、柔軟ですが、自分の聖域としていることには、他人の侵入を許さぬ精神をもっています。

・角（かく）宿は、人と調子を合わせるのが得意で人あたりが良く、善良な心をもっているため、好かれる人です。

このように、3つの宿星とも、女性的な清い精神を持っているということが特徴です。

『おとめ座』のキーワードは『私は分析する』で、全ての物事を慎重に細分化させながら、その本質を見極めたいと願うようです。なぜ、分析して本質を見極めようとするのかといえば、物質と精神を融合させた考え方ができるからなのです。つまり、物質は、そのままでは、益にならず、心の力によって、はじめて有益な物へと変化することができるということ、生まれながらに知っているからです。すなわち、他の人から見れば、実現できそうもないレベルの高いことを求めたり、実現させようとする習性になっていくわけです。注意しなければいけないことは、ただ1つだけです。頭の中で、自分は何をすべきなのかを、自問自答しすぎることです。あまりにも、集中すると、自閉症的になってしまうこともあります。

社会とのかかわりあいでは、統計・分析・批評を必要とするような仕事、重要な人物を補佐したり、物事を管理したりするような職業が向いています。

実際、わたくしが、知る限り、『おとめ座』に支配されている方は、挑戦的なビジネスマンが多いようです。ソフトバンクのCEOの孫氏、初めて大リーガーになった野茂投手など、がそうです。しかし、実力が挑戦したいという気持ちにともなわない場合は、心が不安定になる人が多いようです。

方位的には『西南西』に位置し、場所としては、農耕地帯、山坂のない平地、団地、職場、借家、動物の飼育場、貸室、ペットショップ、ロッカールーム、物置、保健室、資料室、薬局、書類ケース、作業部屋などを象徴します。幸運をもたらす花は、すずらんであり、カトレアは不幸を招きます。病気・怪我は、十二指腸潰瘍、腹膜炎、腸閉塞、下痢、便秘、栄養障害、腸捻転、大腸癌、虫垂炎、肝炎、脾臓疾患などに注意が必要です。



ここまで、解説してくると、かなり『おとめ座』に対する理解が深まったのではないのでしょうか。

最後に、この現実的な『おとめ座』と一緒にまとめて、覚えたほうが良い星座を2つ紹介しましょう。『おうし座』と『やぎ座』も、現実的な大地のような感覚を持ち、決して幻想に浮かれることはない特徴をもっています。ですから、大地のような感じをうけますので、3つの星座を『地』の性質をもった星座といわれるのです。